

リベラルアーツのすすめ

学校長 駒瀬 隆

「2011 年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの 65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」

上の言葉は、今から 10 年程前の 2011 年 8 月、米デューク大学のキャシー・デビッドソン教授のニューヨークタイムズ紙のインタビューでの発言であり、当時の日本でも衝撃を持って受け取られ、マスコミ等でも大きな話題となりました。

これは、この十数年間で AI や IoT 等の新しい技術の発達により、多くの既存の職業がその役目を果たし終え、新たな価値を持った職業が数多く創出されるという産業構造の大変革を予測したものです。この予測を裏付けるものとして、昨年度小学生のなりたい職業第 1 位がユーチューバーであったことや、かつて東京大学から霞が関といえば、典型的なエリートコースであり、これまで多くの東大生がキャリア官僚試験（国家公務員採用総合職試験）合格を目指していましたが、平成 22 年度に東大生出身の占有率は 32.5%、それが令和 3 年度には 13.9%と半減以下になり、反面アントレプレナー（起業家）を目指す学生が多くなったことなど具体的な例を挙げることができます。

また、デビッドソン教授が語った「2011 年度に小学校に入学した子どもたち」とは、ほぼ現高校 3 年生、すなわち皆さんに相当します。皆さんが大学を卒業する頃には、さらに産業構造がダイナミックに変わり、いわゆる「Society5.0」と言われる超スマート社会を現実のものとして捉えることになっていることでしょう。

その一方で、これからは“VUCA（ヴーカ）”の時代とも言われています。“VUCA”とは、Volatility（変化のしやすさ）、Uncertainty（不確実さ）、Complexity（複雑さ）、Ambiguity（曖昧さ）など不透明な社会を表す言葉です。確かに、新型コロナウイルスの出現やロシアのウクライナ侵攻、さらには地球温暖化等、我々の日常生活から国際社会、地球環境に至るまで、先行き不透明な社会で複雑さや不確実さが増しているのは事実です。

皆さんには、このような社会の大きな変化に翻弄されるのではなく、新たな価値を創造し、社会を切り拓いていってほしいと願っています。そのために必要とされるのが、社会の変化に対応できる柔軟な思考力や的確な判断力、そして複雑な課題を解決するための他者とのコミュニケーション力、協調性等の能力であり、このような能力を涵養するための学びが「リベラルアーツ」だと思います。日本語では“一般教養”と訳されることが多い「リベラルアーツ」とは、古代ギリシアで生まれた概念で、古代ローマに受け継がれ、自由 7 科（文法、修辞、論理、算術、幾何、天文、音楽）を基本とする「人の精神を自由にする学問」を意味します。最近の日本の大学では専門性や実学性が求められる傾向が強いですが、これまで述べてきたように、これからは従来の価値観や既成概念が通じない時代であり、物事を多角的に捉えて、様々な方向から柔軟に考える思考が必要となってきます。今は、大学受験の勉強等で頭が一杯だと思いますが、進路が決定した後の生活では、専門以外の分野にも是非興味関心を持って、幅広い教養を身に付けてほしいと願っています。

最後に、皆さんの健闘を祈っています。進路のことでは悩むことが多いと思いますが、一日一日を大切に焦らず頑張ってください。応援しています。